**平成２９年度　事業報告（総括）**

　平成２９年度は、事業所運営に支障をきたす水準にまで高齢者介護現場の人材不足問題が本格化した一年となりました。外国人人材の登用に活路を見出しながら人材不足に対応してきた弊会にとっても十分な人材を確保することができておらず、これまでとは比較にならない程、人材確保の問題が事業継続のための最重要課題となっています。

法人全体としては、

〇 福祉人材の確保・育成・定着

○ 社会福祉法人制度改革への適正な対応

○ ICT機器の整備

　等を主な内容として事業活動を実施しました。

人材不足に苦しみながらも、平成28年10月に開設した重症心身障がい児（者）施設の通年寄与の効果にて、資金収支計算書における事業活動収入は３７億５１１５万３千円（＋２．0％）、事業活動資金収支差額は６億９３９３万７千円（＋２．９％）を確保しました。事業活動収入に占める高齢者介護以外の事業（保育、障がい、医療、教育）比率は４．１％から５．２％へ増加しており、昨年度に引き続き順調な成長を続けています。

事業活動計算書におけるサービス活動収益は３７億４１６８万８千円（＋２．１％）、経常増減差額は４億１９９８万９千円（＋９．７％）と、増収増益を確保しています。貸借対照表では、純資産から総資産を除した比率、いわゆる自己資本比率が６０．２％と、これまで以上に安定感の増した財務体質となりました。

　平成３０年度介護報酬は＋0.54％の増額改定となりましたが、実態は、サービスを提供する人材や資格保有者を手厚く確保できない事業所は減収を余儀なくされる内容であり、全国的な人材不足の中では実質減額改定という厳しい状況に変わりありません。弊会にとっても同様に、いかにして事業を継続するために継続して人材を確保していくか、法人としての真価が問われる一年となります。平成30年度は外国人介護技能実習生の活用も含めた人材確保におけるあらゆる領域に挑戦しながら、社会福祉法人としての役割を果たすべく事業活動に邁進していく所存です。

平成３０年５月２５日

社会福祉法人はぴねす福祉会

理事長　長野　文彦